

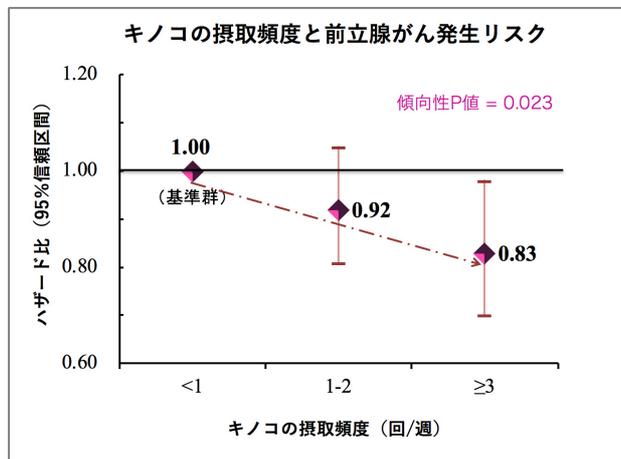
キノコ摂取頻度と前立腺がん発生リスクとの関連： 宮城県コホート研究と大崎国保コホート研究によるプール解析

Mushroom consumption and incident risk of prostate cancer in Japan: A pooled analysis of the Miyagi Cohort Study and the Ohsaki Cohort Study
2019年 International Journal of Cancer 発表

キノコ摂取頻度が高い人ほど前立腺がん発生リスクが低い

多くの生物学的な実験研究によって、キノコには抗がん、抗酸化、抗炎症、免疫調節作用があり、前立腺がんを予防する可能性が示されています。一方、ヒトを対象とした縦断研究（疫学研究）はなかったため、キノコと前立腺がん発生に関する関連は明らかになっていませんでした。

本研究は、キノコ摂取頻度と前立腺がん発生との関連を前向きコホート研究により検証したものであり、キノコ摂取頻度が高い人達では前立腺がん発生リスクが低いことが明らかとなりました（図）。



研究のデータについて

本研究は、宮城県内の2つの研究データを用いて分析を行いました。1つ目は宮城県コホート研究で、1990年6-8月に宮城県内14町村在住の40-64歳の男性25,279名に対して自己記入式アンケートを配布し、そのうち22,836名から有効回答を得ました（回答率90.3%）。2つ目は大崎国保コホート研究で、1994年9-12月に宮城県大崎保健所管轄14市町（当時）居住の40~79歳の国民健康保険加入者のうち、男性26,481名に対して健康に関する自己記入式アンケートを配布し、そのうち24,895名から有効回答を得ました（回答率：94.0%）。本研究ではこのうち、追跡開始日以前に異動した者、がん診断日が不明であった者、年齢40歳未満な者、両コホートに登録していた者の大崎国保コホートデータ分を除外し、さらにベースライン時点でがん既往歴のあった者、ベースライン時点のキノコ摂取頻度を回答しなかった者を除いた36,499名について分析を行いました。追跡期間中、計1,204件の前立腺がん発生（発生率3.3%）を確認しました。

キノコ摂取頻度について

キノコ摂取頻度は、アンケートの回答から得て、3つのグループ（「1回未満/週」、「1-2回/週」、「3回以上/週」）に分けました。このうち、キノコ摂取頻度が「1回未満/週」の者を基準群として、前立腺がん発生との関連を検討しました。

前立腺がんについて

本研究では、International Classification of Diseases for Oncologyで前立腺がん（C61）を定義しました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、前立腺がん発生に関連すると考えられている、キノコ摂取頻度以外の関連要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、家族がん既往歴、教育、喫煙、飲酒、歩行時間、BMI、食物摂取量等の要因についてグループ間に偏りが無いように統計学的な処理を行っています。

研究の特徴と限界について

この研究の特徴は、（1）世界で初めてキノコ摂取と前立腺がん発生リスクとの関連を人口レベルで示した点、（2）一般住民を対象とした大規模コホートデータを用いた点、（3）様々な交絡因子を考慮した解析を行っている点があげられます。一方で、この研究の限界は、（1）ベースライン調査のみの1時点でしかキノコ摂取頻度を評価していないため摂取頻度の変化が考慮されていない点、（2）キノコの種類や具体的な摂取量が不明であること等の限界もあります。